

もっと安心農産物 こまつな栽培歴 (秋冬どり栽培)

J Aいちかわ船橋地区もっと安心農産物生産グループ

1. 土づくり：完熟堆肥を施用し土づくりする。(2,000kg/10a) 堆肥の補助資材としてアヅミンを使用する。
2. 施肥：土壌診断にもとづく施肥量を遵守します。(化学肥料使用量 化成窒素成分上限：秋どり10kg/10a・冬どり8.5kg・10a)

肥料名※	保証成分 (%)			有機態窒素 (%)	施肥量 (10a)		備考
	N	P	K		秋どり	冬どり	
①船橋みらい007	10	10	7	3.3	149kg以下	126kg以下	
②スーパーマイルド有機	10	8	6	6.2	255kg以下	220kg以下	
③マイルド有機030	10	13	10	5.3	212kg以下	180kg以下	
④有機アグレット673	6	7	3	6.0	100kg以下	100kg以下	全量有機態窒素
苦土重焼燐	0	35	0		60kg	60kg	
苦土セルカ2号					60kg	60kg	カキガラ100%の石灰

※基肥は①、②、③から選択する。有機アグレット673はそれらを選択後に窒素分が不足する場合に追加施用する。

3. 防除：使用薬剤は下記の化学合成農薬から9成分以内とする。病害中の発生を随時把握し、早期・最低限の防除に努める。

(1) 栽培・病害虫発生時期

時期	秋どり	冬どり	病害虫	備考
8月	施肥：8/中～			<害虫対策> ・トンネルやハウス施設を防虫ネット(0.8～1.0mm)で覆いコナガ・アブラムシ類の侵入を防ぐ。真夏の太陽熱消毒で、マメハモグリバエ・キスジノミハムシの幼虫を駆除する。
9月	播種：9/中～			
10月		施肥：10/中～	コナガ	<病害対策> ・白さび病は、平均気温15℃前後で降雨が多いと発生しやすい。常発圃場や低湿地は発生しやすいので作付けを避ける。耐病性のある品種を選択する。(いなせ菜 こいしい菜) ・萎黄病には耐病性品種を導入する。発生圃場からの土壌の移動に注意する。作物残渣はきれいに処理して病害虫の発生源をなくす。
11月	収穫：10～11月	播種：11/中～	アブラムシ類 ハモグリバエ類	
12月			白さび	
1月		収穫：12～2月		
2月				

(2) 薬剤の選択について

※薬剤系統：同じ番号は同系統の殺虫剤を示す。連用は避けて使用することが望ましい。

	薬剤名 (化学成分カウント数)	薬剤系統 (コード番号)	対象病害虫	希釈倍数 処理量	使用時期・使用回数
粒剤	アルバリン粒剤 (1)	4A	アブラムシ類	6kg/10a	播種時土壌混和・1回
	ユニフォーム粒剤 (2)	—	白さび病	9kg/10a	播種時全面土壌混和・1回
殺虫	アルバリン顆粒水和剤 (1)	4A	アブラムシ類	3,000倍	収穫3日前・2回以内
	モスピラン顆粒水溶剤 (1)	4A	アブラムシ類	4,000倍	収穫7日前・1回
	スピノエース顆粒水和剤 (0)	5	コナガ・アブラムシ類・ハモグリバエ類	2,500倍	収穫14日前・2回以内
	アグロスリン乳剤 (1)	3A	アブラムシ類	2,000倍	収穫前日・2回以内
	アフアーム乳剤 (1)	6	コナガ	2,000倍	収穫3日前・2回以内
	アニキ乳剤 (1)	6	コナガ・ハスモンヨトウ・キスジノミハムシ	1,000倍	収穫前日・3回以内
	プレバソフフロアブル5 (1)	28	コナガ	2,000倍	収穫前日・2回以内
	コテツフロアブル (1)	9	コナガ・アオムシ	2,000倍	収穫3日前・1回
	エスマルク DF (0)	BT 剤	コナガ・アオムシ・ヨトウムシ	1,000倍	収穫前日・制限なし
	プロフレア sc (1)		コナガ・アオムシ・キスジノミハムシ	2,000～4,000倍	収穫前日・3回以内
殺菌	ランマンフロアブル (1)	—	白さび病	2,000倍	収穫3日前・3回以内